

SCMビジネスモデル研究会
(ビジネスモデル分科会)

ビジネスモデル
の創発に向けて

2003年2月22日

武藤 猛

創発とは何か

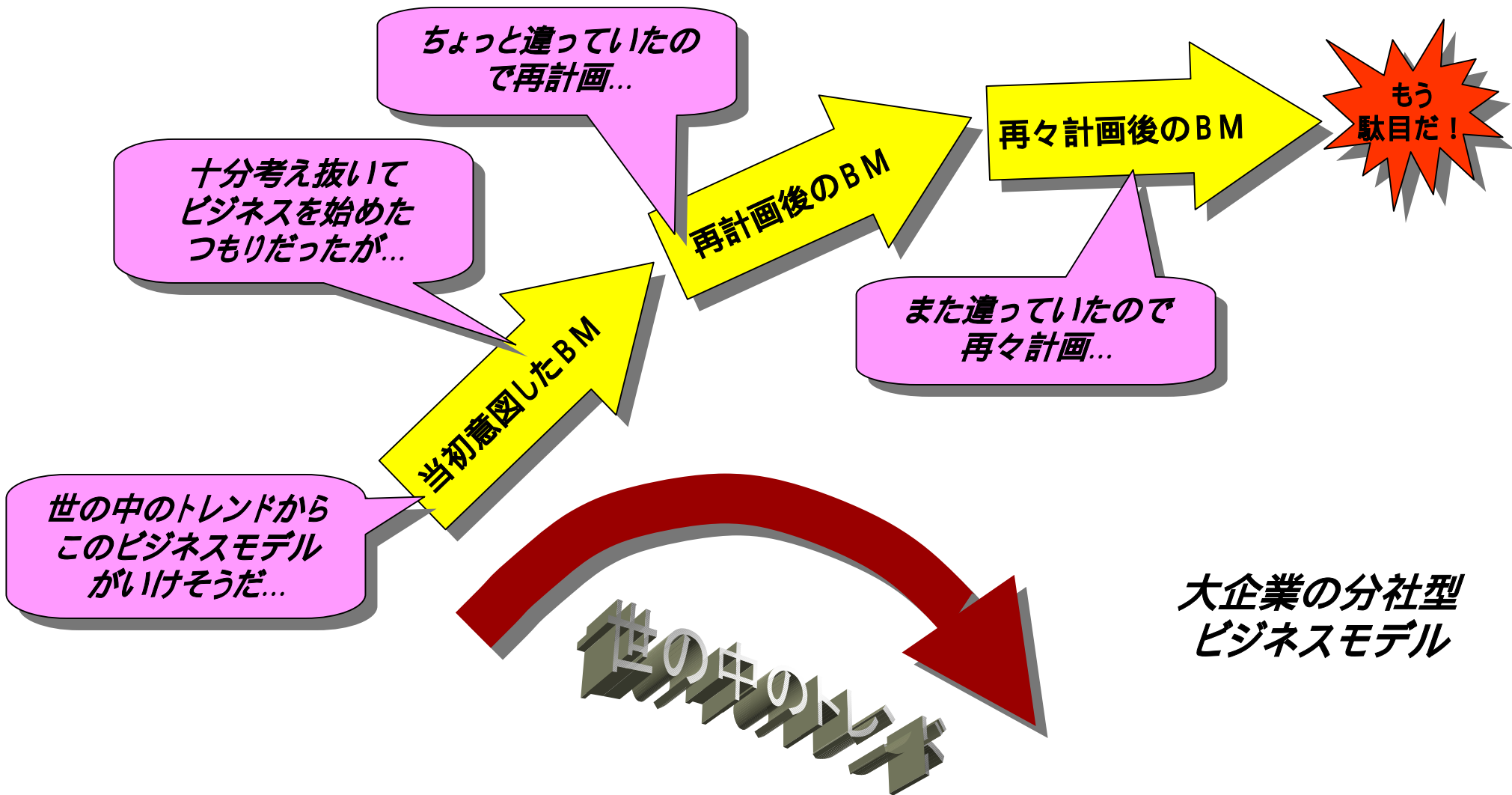
創発現象

単純な法則から複雑で高度な秩序が生じるような現象を「創発」と呼ぶが、創発的な振舞いを見せる代表的なシステムは生物である。生物の身体は細胞というほぼ同質な構成単位が多数集まって構成されており、他の細胞を中央集権的に制御するような特権的細胞はなく、各々の細胞は周囲の細胞が作り出す環境に対応して独自の営みを行っている。にもかかわらず、多数の細胞が互いに協調して活動し、単なる細胞の集合ではない高度な秩序が維持されている。同じような細胞が多数存在することや、中央集権的な制御が行われていないことは、生物に様々なメリットをもたらしている。まず部分的損傷に対して生物はかなりの抵抗力を持っている（成人では1日に10万個ほどの脳細胞が死んで行くと言われている）ばかりか、自己再生能力すらある。また、環境の変化に対してかなり柔軟に適應することができる。これらは、従来の人工的システムにはない能力である。

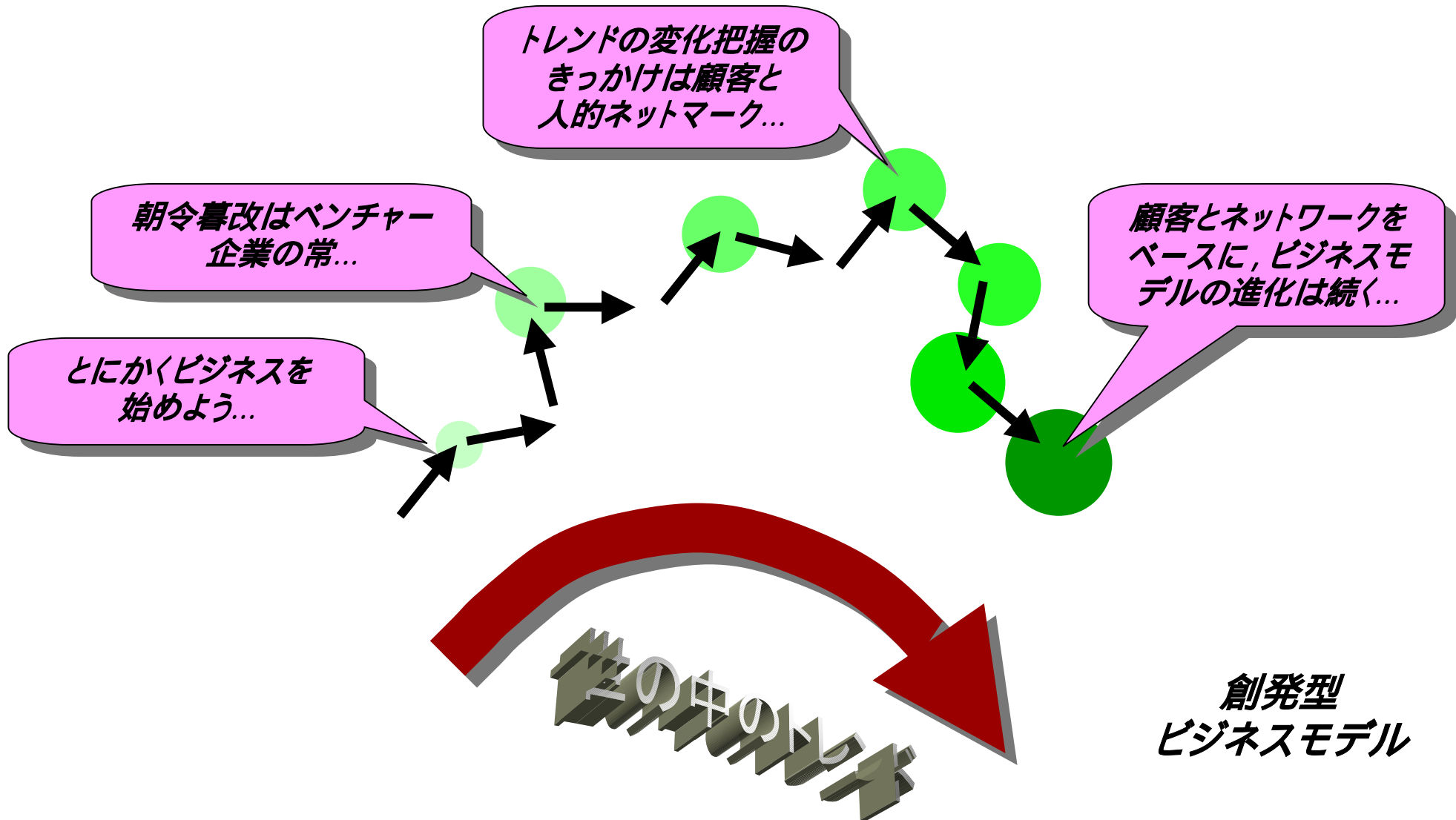
このような特徴は人間社会にも見られ、特にアダム・スミスの市場経済システムとの類似性が注目される。すなわち、個人は市場価格という限定された情報を頼りに自分の利潤だけを追及する行動をとっているにもかかわらず、このような多数の個人が参加する経済システム全体として見ると、「見えざる神の手」に導かれたかのように市場の秩序が維持されているのである。

[出典] http://www.si.t.u-tokyo.ac.jp/sim/research/from_furuta/emergence.html

従来型ビジネスモデル



創発型ビジネスモデル



個人的な体験より :カオスからビジネスモデルへ

1年半前に、偶然、製薬会社向けのコンサルティングを開始
(それ以前にも、何社か製薬会社の経験はあったが、系統的ではない)

幸い好評で、リピートを獲得

人的ネットワーク内の情報密度と精度が高まる
(人から人へと、ネットワークが広がる)

製薬関連の引き合い、パートナーが増える

ノウハウが蓄積され、製薬会社向けのビジネスの可能性が高まる...

個人的な体験より : カオスの中を導いたガイドライン

